第 35 回　堀尾氏と三つの姓

日本における姓と苗字について中世の武士の系図を見ると、源平藤橘のいずれかの姓を用いた子孫であると称している事例が多く見られます。例えば、徳川氏の場合には源姓を用いており、源が本姓で徳川が苗字となります。この場合、徳川氏は源氏の子孫である新田一族の徳川氏であることを示しています。

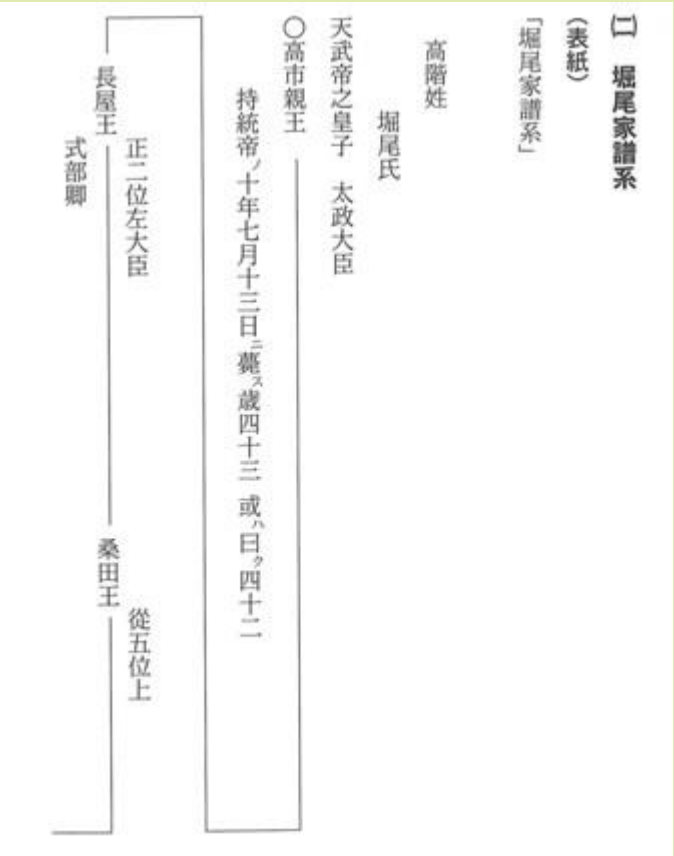
松江を開府した堀尾氏についても、本姓をみると高階(たかしな)や在原(ありはら)を用いていたことが分かります。堀尾の苗字については、尾張国中島郡に堀尾荘という荘園（現在の岐阜県海津市）があるので、何らかのつながりがあったのかもしれません。

さて、堀尾氏が在原姓と高階姓の両方を用いていたのは、どのような理由があったのでしょうか。

高階氏は、奈良時代に活躍した皇族の長屋王の子孫が臣籍に降り、皇族から離れた際に高階姓を与えられ成立しました。堀尾氏の系図類を見ると、この長屋王の父である武市皇子を祖としています。

「堀尾家譜系」（春光院所蔵 『松江市歴史叢書』1 号所収）

高階氏は天武天皇の皇子武市親王を祖としています。



次に、在原氏について見てみましょう。在原氏は平城天皇の皇子阿保親王の子孫が臣籍になった際に与えられた姓です。この阿保親王と妃の伊都内親王（桓武天皇皇女）の王子に在原業平という人物がいました。歌人として名を残し、古典の『伊勢物語』の主人公のモデルとなったとされる貴公子です。

古典の授業で「筒井筒」の話を覚えておられる方も多いかもしれません。この『伊勢物語』の主人公が伊勢に訪れた際に、斎宮（伊勢神宮に派遣された内親王）に会いたいと思うのですがなかなか会えずにいたところ、夜中に斎宮から思いがけず忍び尋ねられました。しかし、つかの間の逢瀬のうちに別れ、その後互いに会うことができなかったそうです。このときの斎宮は恬子内親王ではないかとされています。その後日談として、斎宮と男との間に子が出来ていて、その子が高階氏の元で育てられ、高階師尚を名乗ったと伝わっています。そのため高階姓の人物が伊勢神宮を参拝することに支障があったとか、高階氏の血を引いた女性の産んだ皇子が皇位を継承するのに差し障ったなどの伝承が語られるようになりました。ただしこの話は伝承だけのようで、吉晴の父の泰晴の時代から堀尾氏は伊勢神宮への信仰を続けていたようです。

このように吉晴・忠晴ら堀尾氏の人々は、在原姓と高階姓の 2 つの姓を用いていたことが分かります。

「堀尾家譜系」（春光院所蔵 『松江市歴史叢書』1 号所収）

高階師尚は、在原業平と伊勢斎宮との子であるとの注記が見えます。

次に、3 つめの姓がどのようなものか見てみましょう。吉晴が仕えた豊臣秀吉は、従った武家に対して「羽柴」姓を授与し、擬制的な同族関係を結ぼうとしました。その後関白となった秀吉に後陽成天皇から「豊臣」姓を与えられました。後陽成天皇を聚楽第に迎えた行幸の後に、官位を得た武家に対しては本姓を「豊臣」に改姓させたとされています。

秀吉の場合には、かつての同僚であった織田家旧臣や外様の大名に「羽柴」姓を与えることが多く、子飼いの武将では秀吉晩年に福島正則などへ与えています。また、「豊臣」の姓も比較的小身の直臣へ与えた他には、外様の

諸大名（徳川・上杉・毛利）やその家臣（高力・須田・福原など）へ与える事例の方が多いようです。吉晴が「羽柴」の姓を称した史料は今のところ確認されていないのですが、秀吉没後、慶長 9 年（1604）6 月、従四位下に昇進した折に豊臣姓を用いているようです。同時期に山内一豊も「豊臣」姓を与えられており、関ヶ原合戦後に生き残った豊臣恩顧の武将たちへ、豊臣氏への引き留めを図ったのかもしれません。

ここで吉晴の孫の忠晴について見てみましょう。国文学研究資料館所蔵の慶長 15 年（1610）正月に記された『源氏物語聞書』の奥書には「豊臣朝臣堀尾三介泰長」とあります。この史料は、忠晴の母である長松院（前田玄以娘）が杵築大社の国造千家元勝に写させた『源氏物語』の注釈書です。このことから、忠晴が豊臣姓を用いたこと、泰長を名乗っていたことが分かります。

豊臣氏滅亡後、外様の諸大名にも松平姓が与えられ、羽柴・豊臣姓は用いられなくなります。例えば土佐の山内氏は松平姓を用いるようになります。しかし、忠晴については松平姓を用いた史料は確認されていません。むしろ忠晴は、秀頼・淀殿母子が亡くなり豊臣氏が滅亡した 4 年後の元和 4 年（1618）まで豊臣姓を使用していました。

このように堀尾氏は 3 つの姓を用いていたことが分かります。豊臣氏滅亡後、しばらく在原と高階の 2 つの姓を用いつつ、後に高階姓を通しているという状況をみることができます。忠晴にとって貴公子として知られた在原業平との繋がりと、古からの高階姓を好んだのかもしれません。

参考文献：村川浩平著「羽柴氏下賜と豊臣姓下賜」（『駒沢史学』49 号、1996 年）
福井将介著「堀尾氏関係史料目録」（『松江市史研究』第 1 号、2010 年）
※同目録発表後、180 点以上の堀尾氏関連史料を確認した。

（平成 26 年 7 月 3 日　松江市史料編纂室　福井将介）